



教職員支援グループ（教育情報）より

子どもが ICT 機器を活用する授業！

教師がデジタル教科書や自作の資料をモニターで提示する授業が一般的になりつつあります。子どもたちの興味・関心を高めたり、思考や理解を深めたりすることの有効性を感じている先生方も多いのではないのでしょうか。今号では、子どもが ICT 機器を活用した授業を紹介します。先日、東中学校で行われた研究発表会において、生徒がタブレット端末を活用した授業実践です。

福永 みどり 教諭 【数学】	安田 竜浩 教諭 【体育】
<p>第3学年「相似と比」</p> <p>（本時のねらい） 三角形の角の二等分線を引いてできる線分の比について確かめる活動を通して、角の二等分線に関する図形の性質が成り立つことをいろいろな補助線を使って証明することができる。</p>	<p>第2学年 「器械運動『前方倒立回転跳び』」</p> <p>（本時のねらい） 両足を揃えて力強くロイター板を踏み切り、倒立姿勢を経過しながら前方倒立回転跳びをすることができる。</p>
 <p>（タブレットの活用） 考えづくりをするためのヒントとなるコンテンツをパワーポイントで作成し、個人追究の時に生徒が自由に見ることができるようにしてある。</p>	 <p>（タブレットの活用） グループに1台タブレットを使い、仲間の演技を動画で撮影し合う。撮った動画はすぐに再生して自分の演技を確認できるようにしている。</p> 
<p>（生徒の様子） 補助線を1本ずつ引く様子が分かるようにコンテンツが作られているため、着目すべきところが分かりやすく、これをヒントにしながら証明を書くことができている生徒がいました。</p>	<p>（生徒の様子） 撮った動画をすぐに見ることができるため、意識するポイントを確認して次の演技に生かしていました。また、グループ反省会でもタブレットで出来栄を確かめ合うことができていました。</p>

この他にも工夫された授業がたくさんありました。子どもたち自身が ICT 機器をツールとして使うことができるようになれば、さらに子どもたちの学力向上につながるのではないのでしょうか。教育総合研究所としても、先生方がそれぞれの学校の ICT 環境を生かした実践ができるように支援していきます。

児童生徒支援グループ（少年支援）より

少年支援員研修会の報告

10月5日に行われた第2回大垣市少年支援員研修会において、各校区で気になる事案やよさを交流していただきました。地域やPTAの方と意見情報交換することは非常に有意義です。意見の一部をまとめてみました。



☆よいところ

- ・登下校時の見守りの方が、児童生徒の安全をしっかりと見守ってくださっている。
- ・祭りや清掃等、地域行事に積極的に参加してくれる児童生徒が多い。
- ・ニコニコ笑顔の挨拶・元気な挨拶をしてくれる。挨拶ができるようになってきた。
- ・ケガをした低学年の子を高学年の子が世話をしてくれた。
- ・登下校の並び方もよくなった。
- ・横断歩道で子どもが渡りきるのを待っていると、ちゃんとお辞儀をしてくれる。

☆気になること

◇交通安全について

- ・登下校時に、班がばらばらになることや道に広がって歩く様子がみられる。
- ・寄り道や道路で立ち止まって話しこむ姿がみられる。
- ・スピードを出して通学路を通る車がある。
- ・交通量が多い信号のない交差点がある。

◇いつ出没するか分からない不審者について、引き続き警戒したい。

◇小学校でもスマホ所持率が上がっている中、フィルタリングへの意識が薄い保護者もいる。

◇パトロールをしても、外で子どもを見かけることが少ない。

地域の方々、先生方のおかげで大きなトラブルなく過ごせています。引き続きパトロール・見守り活動をよろしくお願いします。

教育の不易

～時代を越えても変わらないもの～

先日、研究所に地域の方があるものを持っていらっしやいました。「私の母が大切に保管していたものです。私ももう年ですし、何かのお役に立つのでしたら。」と、クリアファイルに丁寧に挟んで渡してくださいました。それは、昭和24年7月27日に発行された、市内のある小学校の学校だより第1号でした。

創刊号ということもあり、B4表裏にびっしりと記事が掲載され、「学校長あいさつ、育友(PTA)会長あいさつ、児童の優秀作品(詩・俳句等)の紹介、学校から家庭へのお願い」等、なかなか読み応えのあるものでした。その中には、すでにこの頃からそのようなことが言われていたのかと、目から鱗が落ちるような内容がありましたので、一部紹介します。

従来の教育は、ややもすると教科書の指導に重点がおかれていました。現在の新教育に於いては、教科書を粗末にするのではないが、只教科書にかいてある事柄をよく理解して記憶しているだけではいけません。それを糧として、働きのある人間を養成するのです。いわば教科書を指導するのではなくして教科書で人を育てる、換言しますと教科書で児童の生活を育てるのです。・・・(中略)・・・

教育は教師と父兄の方々との密接な提携によって行われることは申すまでもありません。

そしてできるだけ物心両面の環境を充実して豊かな生活経験をつませ、児童が自発的自主的に規則正しく学習できるように習慣づけることが大切だと思います。【原文のまま記載】

この学校だよりの現物は、その小学校にお渡しし、校長先生も快く受け取ってくださいました。優秀作品として掲載された児童名の中には、今も地域の方として学校に協力して下さっている方もいらっしや、コピーをお渡しすると昔を懐かしんでとても喜んでいただけたそうです。もし、読んでみたいと思われた方は、教育総合研究所：河村までご連絡ください。コピーをお送りします。

《教育総合研究所にかかわる12・1月の行事》

12月13日(水) 第3回研究指導員会
※第3回これから研修 各校にて実施(12月中)

1月19日(金) 第2回情報教育主任研修会
25日(木) ふるさと大垣科研修会